

今こそ変わるチャンス、 さまざまな変革に チャレンジする一年に

新年明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

日頃から日本医薬品卸売業連合会の活動にご理解とご支援を賜りますとともに、各方面の方々にはご指導とご協力をいただいておりますことに心から御礼申し上げます。また、会員構成員企業の皆様には、災害時の緊急対応をはじめ、医薬品の需給調整を含め、平時・有事に関わらず、医薬品の安定供給を通じて、社会的使命を果たしていただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、我々にとっての大きな転換点となる流通改善待ったなしという中で、会員構成員企業の皆様方の真摯な取り組みにより、昨年実施された令和7年度医薬品価格調査結果では、薬価の平均乖離率が約4.8%と前回の約5.2%から0.4ポイント圧縮し、過去最小値となりました。

さらに、昨年末の臨時国会で可決・成立した令和7年度補正予算に、はじめて医薬品卸業者を対象に継続的な安定供給の支援として63億円が充てられることとなりました。

これらが実現できたのは、皆様方が平時・有事を問わず、厳しい環境下でも医薬品流通にご尽力いただいた賜物であり、医薬品卸の価値、医薬品の安定供給の重要性が再認識された証であると思っております。

特に、現場の最前線では、5年にわたる需給調整などで大変ご苦労をいただきながらの今があり、皆様方のこれまでのご努力があったからこそ、実現できたことであります。心から感謝申し上げます。

さて、医療業界は今、かつてないほどの変化の波にさらされております。

昨年6月に、政府による「骨太の方針」が発表され、「医薬品の安定供給に向け、取り巻く環境の変化を踏まえた持続可能な流通の仕組みの検討を図る」という文言が盛り込まれました。

また、医療保険制度の改革に加え、薬価制度や医療制度、患者負担の見直し、さらには、国の規制の見直しなど、様々な制度改革が検討され、今年度中にその方向性が決定されてまいります。

加えて、デフレからインフレへの転換が進み、エネルギー価格や原材料価格の高騰による物価高など、業界環境はますます不透明さを増しております。

そのような中、当連合会では、昨年9月に行われた中医協において、毎年の薬価改定に伴う仕入原価の上昇とインフレによる流通コスト上昇の影響を受け、持続的な流通が困難になっている状況を踏まえ、持続可能な流通を確保するため、「中間年の薬価改定の『廃止』」「流通経費が仕入原価に反映される仕組みの実現」「流通コストにおける物価高騰への対応の検討」を要望いたしました。

昨年10月に発足した高市内閣では、責任ある積極財政を進める一方で、社会保障制度改革も進めていくこととされており、当連合会では、持続可能な流通の仕組みの構築に向け、平時・有事における医薬品の安定供給確保のための先行投資に対する補助を含め、医薬品卸の取り組みへの支援が経済対策に盛り込まれるよう、国会議員など、関



一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会
会長

宮田 浩美

係方面に対して要請いたしました。

また、昨年11月に開催された流改懇では、さまざまな調査データに基づき流通不採算や逆ザヤの実態が浮き彫りとなりました。流通改善ガイドラインを再度改訂することで、流通コストの意識を高める方向性が示されたことは大きな前進であると捉えております。

加えて、昨年12月に開催された中医協では、逆ザヤに関するデータを示したうえで、これらを解消するため、逆ザヤが最も多く発生している薬価20円未満の品目について、薬価の引き上げを要望いたしました。

さらに今後は「単品単価交渉の定義の明確化」や「総価交渉の解消に向けた取り組み」などを課題とし、流通関係者の皆様のご理解をいただきながら、引き続き、古い商慣習からの脱却を目指してまいりたいと考えております。

卸連合会では、これまで真に実効性のある「流通改善」を一丁目一番地として取り組んでまいりました。薬価の平均乖離率が約4.8%と過去最小値となったという結果が示すのは、もはや毎年の改定によって、薬価を引き下げようような環境、経済状況にはないという一つの証だと考えています。

一方で、私たちは、この結果を維持していくことが最も重要であり、「単品単価交渉」によって、しっかりと製品価値を守り、安定供給につなげていかなければなりません。

そのためには、会員構成員企業それぞれが、自ら変わることが重要であり、自らを律し、自らの規範にのっとって行動する「自律」と、自らが他者に依存せずに行動する「自立」、この2つの「じりつ」が求められているのではないかと考えております。

続く需給調整に加え、物価高騰や賃金上昇などもあり、一段と厳しい価格交渉の環境ではありますが、医薬品卸自らが率先して取り組むことはもとより、そのうえで、医療機関、保険薬局、製薬企業の皆様、医薬品卸の相互理解を深め、互いに共感し、納得して行動に移すことで、「流通改善」を継続して進めてまいる所存でございます。

他にも、大規模災害時等における盤石な流通体制の構築、請求書や納品伝票など帳票類のフォーマットの統一化、ならびに、中抜けなどの返品への対応に向けたデータベースの構築などにつきましても進めてまいりましたが、引き続き、本格運用に向けた準備を進め、必ずや成果を上げてまいりたいと考えております。

私たちを取り巻く環境は想定を上回るスピードで変化していますが、このような時だからこそ「変わるチャンス」と捉え、卸連合会としても、さまざまな変革にチャレンジしてまいりたいと考えております。

本年も日本医薬品卸売業連合会に関わるすべての皆様のお力添えをいただきますよう、心よりお願い申し上げます。